

評議員会出席者 春日井 治、瀬能 宏、立原 一憲、細谷 和海、三中信宏、本村 浩之、森中 定治 (オブザーバ 横川 浩治、畑 あゆみ)

委任者 浅川 満彦、蒲生 康重、川勝 正治、幸塚 久典、寺山 守、鶴崎 展巨、富川 光、山根 正気 (寺山 守氏、鶴崎 展巨氏はハガキでは出席であったが欠席されたので委任者とした)

欠席者 太田 英利

1. 会長挨拶

参加人数の確認の結果参加 7 名、委任状 8 名、計 15 名で定足数を満たしており成立。議長と書記が提案され、承認された。森中会長から、今日の評議会、明日の大会を素晴らしいものにしたいという挨拶があった。

2. 各委員・幹事報告

企画報告

第 78 回日本生物地理学会大会の一般発表、市民シンポジウムの開催結果について報告があった。

庶務報告

1. 第 79 回日本生物地理学会の開催予定 (2025 年 4 月 12、4 月 13 日) について報告があった。

2. 貸倉庫に保存されていた書籍について森中会長と瀬能氏が中を確認し、すべてのバックナンバーを鹿児島大学に送付した。今でも年に数回海外からの希望がある。時代は、電子化の流れであるので、冊子体送付から PDF 送付に切り替えて行く。ただし、この学会の特徴として、退職後も研究をつづける会員が多いため、冊子体は継続していく必要がある。

鹿児島大学で、各巻 1 冊づつを電子化用に、さらに各 5 冊を別に保管している。戦前と戦後直後の巻が不足しているが、鹿児島大学の図書館には、ほぼすべてそろっている。学会の予算に余裕がある時に電子化する予定である事が報告された。

3. 会計幹事の浅川満彦氏が退任し、後任に畑あゆみ氏が就任する事が承認され、畑氏から就任のあいさつがあった。

4. 2025 年度会計監査の西川輝昭氏が退任し、後任に久保田正氏が就任することを承認した。

5. 生物科学連合から、科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書への協力依頼があり、事務局会でメール審議のうえ賛同した。

6. 日本生物地理学会通信を 2024 年 10 月 20 日に発行した。

広報報告

1. ホームページの維持、アップデート等について書面で報告された。

2. 横川氏から説明があった。電子化については、賛成が 87%であった。冊子体の有無については、有料でも必要が 30%を超えているので、これからも冊子体は維持する方向である。瀬能氏から、印刷数が減ってきたらオンデマンドで印刷する選択もあるという意見があった。細谷氏から、電子ジャーナル化は時代の流れであるが、アンケートと冊子体希望のタイミングについて質問があり、横川氏から毎年、冊子体希望者を聞く必要性について説明があった。

3. 大阪大学から「オーサーシップと二重投稿に関するアンケートの協力依頼」があり、メールで会員に通知した。

編集委員

和文誌

日本生物地理学会会報第 79 号は、2024 年 12 月 20 日に発刊された。第 80 号は現在、原稿募集中である旨の報告があった。

英文誌

2024 年 10 月 20 日より、オンラインジャーナルとして論文が受理、随時出版されている事が報告された。

会計報告

2024 年度会計報告

森中会長から 2024 年度の決算報告について説明があった。収入面ではバックナンバーの売り上げが鹿児島大学からのアナウンスにより、大幅に増えた。支出の倉庫関連費には鹿児島大学の整理関連費も含んでいる。例年はほぼ収入との差額がなかったが、今年度は 312643 円の繰越金が出た。瀬能氏から、繰越金について魚類学会では比較的多い額が繰り越されており、学会の安定的運営に寄与している。繰越金が多いと税務署がはいる可能性があるため社団法人化している学会が多い。

2025 年度予算案

森中会長から 2025 年度の予算案について説明があり、今後の電子化の予算をどうするか議論してほしいとの提案があった。現在は、電子化されても印刷費はそのまま計上しているが、来年度も 30 万ほどの黒字が予想されている。余剰金を投稿費の減額に回すか、過去の雑誌の電子化に回すかを検討したい。本村氏から、電子化にかかる金額は 20-30 万程度ではないだろうかという意見があった。瀬能氏から、古い雑誌は、国会図書館でデジタル化されているものがあり、著作権を委譲したら国会図書館でやってもらえないだろうかという意見があり、本村氏から、一時期、文科省の予算がついて古い雑誌の電子化が進んだらしいとの説明があった。この件については、本村氏が確かめる事になる。

3.その他

①第 80 回日本生物地理学会大会を 2026 年 4 月 11-12 日に ZOOM 開催することが提案された。次の執行部で決めなくてもいいのかという質問があったが、時間的な問題から、このように行うことが承認された。瀬能氏から、数年先までの予定を立てておくこと運営しやすくなるという意見があり、2027 年は第 2 週、2028 年は第 3 週に開催するという提案があり、了承された。

②会長・副会長選挙ならびに評議員の選挙について

評議員の任期は 2 期となっているが、現在の評議員の多くが 2 期になっている。総入れ替えというわけにはいかないがどうするか？という意見があった。春日井氏から「原則として 2 期」なので、継続してよいのではないかと言う提案があった。瀬能氏から、魚類学会の例では、地区制をやめた結果、若い評議員に入れ替わることが出来たことから、引き継ぎを適切に行えれば、うまくいくのではないかという意見が出された。

③会計監査の後任について

会計監査の後任として久保田氏が承認された。

④投稿料の削減について

倉庫費等の削減に伴い、投稿料の削減が提案された。⑦の項目と関連するので、本村氏から説明があり、承認された。削減案が決まれば、明日の総会に報告する。この価格が動き始めるのは次号からとなる。

⑤会員数の減少について

会員数の減少（300 名から 260 名）について報告があった。若手の入会が少ない。将来にわたってどのようにするかを引き続き、論議していく。

⑥学会賞について

瀬能氏から、学会賞の判断基準は、単に論文数だけではなく、学会への貢献なども加味するので少し時間をかけて、継続審議として議論した方がよい。

⑦Biogeography の徴収金の金額と名目の変更について

本村氏からオンラインジャーナル化に伴い、超過頁代とカラー頁代を論文掲載料（オープンアクセス費を含む）に変更したいとの意見があり、そのために必要な論文掲載料が提案され、承認された。現在の冊子体は50冊であり、その場合オンデマンドの方が安いはずである。冊子体のホール版を学会のHPに乘せるようにしている。

（文責・立原）